

…ロバを買う…

「ロバを買いませんか？」と唐突にゆかちゃん（運営委員の下田由佳さん）が言うから「ロバを買ってどうするの？」と問い返したら「本を売るんですよ」と。「いったいどこからそんなアイデアが生まれるんだい？」にそのわけを話してくれた。



『育ちと学び』の『はじめまして』に登場したことがあるシネマまえばしの小見さんのアイデアです。小見さんは絵本の本屋さんもやってるんですけど、ロバに本を積んだ荷車を引かせてあちこちに売りに行ったらいいんじゃないかって！」たしかにロバはおとなしいから、本の売り子には向いているかも知れない。

ロバと言えば私は「プラテ-ロとぼく」を思い出す。心を患った詩人ヒメネスが故郷アンダルシアの町に帰ってロバと散策の日々を散文詩に綴った。岩波少年文庫版の緑色の表紙が懐かしいがどこにしまったか分からない。Amazon で岩波文庫版を注文して再読した。長南実訳の新版は「プラテ-ロとわたし」に改題されていた。

プラテ-ロがロバ。ぼくはヒメネス自身。全編に太陽や緑、草花、小川、生き物の姿がちりばめられていてまるで宝石箱を開けたよう。時には「狂人！狂人！」と子ども

たちから囃し立てられることもあるがそんな時にプラテ-ロの黒い大きな瞳と銀色のふわふわした毛並みがぼくの心の平静を保ってくれる。ぼくはプラテ-ロといっしょにいとこの時が永遠に続くような感覚をいただく。

やはりロバは素敵な生き物だ。

スマホ、電気自動車、黒糖カレントウなど買いたいものはたくさんあるけれどロバもいいかもしれない。散歩しながら花を食べて生きて行けるようになるかもしれない。

しかし島を買おうという話には驚いた。いくらお国のためだといっても何か物騒な買い物にはなりません。だいいち、都民の賛同が得られるとは思えない。いつだって大切な税金は平和な生活のために使われなければいけない。ロバを買うのに賛成！小見さん、ロバの本屋さんをぜひ実現してください！



ファン・ラモン・ヒメネス
1881—1958
スペイン南部アンダルシア州
モゲールに生まれた
1956年ノーベル文学賞受賞

